

平成22年度
「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」
「大学教育・学生支援推進事業」学生/就職支援推進プログラム
意見交換会【近畿地区】

事例紹介大学等のプログラム概要

1. プール学院大学（平成19年度選定）

プログラムの名称	発達障害を有する学生に対する支援活動 ー大学における特別支援教育の取組
（プログラムの概要） 18歳人口の減少の影響で、各大学とも定員数確保のためにA0入試や推薦入試など、受験生に学力試験を課さない入試が増加し、その結果、資質、能力、知識の異なる学生が大学に入学するようになってきた。本学でも入学者の5割以上がA0入試や推薦入試によるものである。選考時に面接を行っているが、受験生一人ひとりの資質を十分に把握することができず、入学後発達障害を疑われる学生が近年増加し、今日では学生の1割程度が発達障害を有していると推測されている。発達障害を有する学生は、学習や対人関係、進路選択において課題を抱えており、なんらかのサポートがなされないまま放置されると、留年や退学、進路先未定の状態での卒業に繋がっていくおそれがある。そこで、本プログラムは、発達障害を有する学生を対象に、個別の教育支援計画を策定し、学習支援、ソーシャル・スキル・トレーニング、キャリア教育を総合的に行っていくとするものである。	

2. 大阪国際大学（平成21年度選定）

プログラムの名称	多様な情報機器活用による総合的なビジネスリテラシーの養成
（プログラムの概要） 本取組は、枚方キャンパスにおける学生の就職支援を目的に、携帯型情報機器等を用いてビジネスリテラシーの養成を推進するものである。本学キャリアセンターでは、年間約150回の支援行事や延べ約3,000回の個人面談を行っているが、就職活動に対する学生自身の主体性の欠如や基礎学力の伸び悩みが喫緊課題となっている。このため、低学年から就職活動に必要な一般常識や応用力等を積み上げるため、携帯性に優れソフトウェアの充実が著しいニンテンドーDSを用いた継続的な学習プログラムを導入する。学習効果は独自の習熟度テストと公的な検定試験で定期的に測定し、達成度に応じてセミナー指導教員がきめ細かにフォローアップする。さらにメーリングリストおよび学内SNSシステムを活用し学習の相互啓発を促す。また、機器を用いた学習では身につかないコミュニケーション能力等については、セミナーやキャリアセンターと連携したメニューで総合的に支援する。	

3. 京都西山短期大学（平成 21 年度選定）

プログラムの名称	学生支援ポートフォリオ教育プログラム
<p>（プログラムの概要）</p> <p>本取組では、学生のキャリア形成等の総合的な学生支援の充実を図り、学生、教員、職員が三位一体となった教育の実質化と恒常的な教育の改善サイクルの確立を通じて、学生を支援する教員の資質や教育力を高める。また多様な学生のキャリア形成と就職活動を支援し、全学の就職率（81%）の目標を達成する。具体的には求人や学生情報等を一元管理し、いつでもどこでも閲覧及び伝達可能な環境や、SPI、EQ、NLP等の学習機会を提供して効果測定を行う。次年度には学生個々の授業や課外活動の成果を極力タイムラグなく蓄積・管理し、学習プロセスと成果の相互検証、教育の改善サイクルの基盤となるポートフォリオシステムを確立する。学長を中心に全学が連携し、支援プログラムを専任教員が学生に指導して、単位認定による教育の実質化と FD 委員会で検証・評価する教育の質向上に取り組む。</p>	

4. 京都光華女子大学（平成 21 年度選定）

プログラムの名称	学生個人を大切にしたキャリアメンターによる就活基礎力養成
<p>（プログラムの概要）</p> <p>本学では、就職満足度 100%を目指した各種支援を行っている。学生キャリア支援センターには専門職員が常駐し、就職相談に対応している。支援内容は一般的な用語質問から精神的支援、個別の面談指導など本学特有の就職指導まで多岐に渡っており、満足度は高い。就職活動を迎えた学生には進路登録カードの提出を促し、希望にそった就職支援を行っているが、提出率は就職活動開始時点で 65%（H21）である。</p> <p>本取組では「進路が考えられない」「就職相談する基礎力が不足している」学生に対して、学生個人を大切にしたいきめ細かな助言体制を整備するためにキャリアメンターを導入し、就職活動に必要な基礎能力（就活基礎力）の養成を行う。就職支援態勢を強化する事で、より多くの学生が進路に対する意思の明確化ができるようになり、同センターへの進路登録が増え、相談件数が増加（目標 20%）することで就職好調期の就職率 90%（H20 は 83%）を目指す。</p>	